

2026年度6月講座 感想まとめ

<実行委員より>

今年度最初となる本講座は、オンライン形式で開催しました。今回の講師には、小学校で日々実践を重ねておられる仙石裕子さんをお迎えし、北海道の小学校における「アイヌ」文化に関する学習について、地域の特色を生かした実践をご講演いただくとともに、具体的な授業実践をご紹介いただきました。

講座の前半では、所属校の地域の特色や児童の実態、それらを生かしながら30年以上にわたって受け継がれてきた実践の歩みや、その積み重ねについて詳しくご紹介いただきました。学校だけでなく地域と連携しながら進められてきた綿密な指導計画や、長年にわたり実践を継続・発展させてきた取組は、大変参考になりました。

講座の後半では、参加者同士が意見交換を行いながら、実践的な視点について理解を深めました。立場や地域の異なる実践者同士だからこそ生まれる多様な視点や、それぞれの学校現場に根差した工夫に触れることで、自身の授業づくりや実践を見つめ直す貴重な機会となりました。

今年度最初の講座にふさわしく、多くの学びと気づきにあふれた、大変実りある時間となりました。仙石さんには、ご多用の中、貴重な実践をご紹介いただきましたことに、心より感謝申し上げます。今回の学びを今後の授業づくりや校内研修に生かし、子どもたちのより深い学びにつなげていきたいと思います。

<講師の仙石裕子さんから>

何とか講座を無事に終えることができ、今はホッとしております。今回の講座に向けて、自分自身の実践を改めて振り返り、整理しながらまとめることができたことは、私にとっても大変有意義な機会となりました。日頃は実践に追われることが多いため、このように立ち止まって振り返る時間の大切さを改めて実感しています。

過去の先輩方が積み重ねてきた実践の上に、現在のびのびと学ぶ子どもたちの姿があるのかなと思います。学校を取り巻く地域の声はあたたかなものが多いですが、自身もハララキで学んだ保護者世代の声も聞いていきたいです。

また、参加者の皆様からいただいた質問や感想には、私自身も多くの気づきや学びをいただきました。「そのような見方もあるのか」と新たな視点を得ることができ、大変刺激を受けました。今回いただいたご意見やご感想は、今後、別の場で実践を発表する際にも参考にさせていただき、さらに実践を深めていきたいと考えています。

<参加者からの感想>

今回の講座から、アイヌ文化を身近に感じられる実践がたくさん分かりました。特に小学校は、実体験を伴う学習が大事であるため、より具体的な実践から学んでいく活動は今後も残していく必要があると考えました。私自身、アイヌ文化についてまだまだ勉強不足ですが、人権に関わる問題や課題もあるので、より身近に感じ、教える難しさを感じまし

た。道内・道外でもアイヌに関わる実践が少ないということからも、インターネット上の差別的なデマに流されず、正しくアイヌについて理解する機会をつくることが何より大切であることを学びました。(Kさん・小学校教員)

学校全体で、しかも30年以上という長い期間にわたって実践を積み重ねてきたことに、大きな驚きと感銘を受けました。継続的に取り組んできたからこそ培われた実践の積み重ねや、その成果がよく伝わる内容でした。

また、授業の中には講師の先生の工夫が随所に見られ、「アイヌ」を扱う授業という枠を超えて、日々の授業づくりにおける発問や教材提示、子どもの学びを引き出すための姿勢など、多くの示唆を得ることができました。

これまで私は、「アイヌ」という、扱い方によってはデリケートな内容を授業で取り上げることに、少なからず抵抗や難しさを感じていました。しかし、子どもの実態に合わせて丁寧に工夫された実践や、その積み重ねによる子どもたちの変容を知ること、**「自分たちの学校でも取り組んでみよう」**と前向きな気持ちになることができました。今回の講座は、具体的な実践方法だけでなく、新しい学びに挑戦する勇気も与えてくれる、大変有意義な学びとなりました。(Mさん・小学校教員)

仙石先生、実践報告ありがとうございました。二風谷小学校では、身近にある歴史や現在に続く文化を子どもたちがどのように学んでいるか学ばせていただきました。

自分たちの地域にある文化を誇れるような社会になっていけば良いなと思いました。その一つの方法として言葉や文化を経験していくことで、私たち一人ひとりが感じて、考えていくことであると思いました。

中学生など、大人になるにつれて、アイヌについて学んでいることを知られたくないと考えてしまう現状があること。一方で大学では、アイヌの言葉を教えているところが増えていることも質疑応答のところで出てきました。

様々な考え方の人がいる社会で、文化などを知ることで、差別だけでなく文化の魅力的な部分を知り、受容できる関係ができるように、今回仙石先生から学んだことを活かして、自分の住む地域で行うならどう伝えていくか考えていきたいと思います。ありがとうございました。(Sさん・特別支援学校教員)

二風谷小学校のカリキュラムには、しっかり計画的に「アイヌ文化」を学ぶことが位置づけられていて、そういう教育環境の中で行われた実践であることがよくわかりました。

また、このカリキュラムがなり立つためには、地域の協力、理解なしにはできないし、仙石さんがひとり頑張るだけではできない。そういうことがこの実践に背景にあることもわかりました。

グループに分かれて行われた話し合いの報告をあるグループがしていましたが、《ことば(＝アイヌ語)を大切に考えたとりくみだと感じた》と分析していました。まったく同感です。ことばを大事にしなければ、文化も理解できないし、アイヌの人々や社会のことも理解

できません。

二風谷小学校はアイヌにルーツにもつ人々の多いこの地域の核となる存在だと思います。二風谷小学校の今後はこの地域の将来に大きく関わります。「アイヌ文化」をしっかり学んだ子どもたちが、この地域で活躍できるような地域になってほしいと願います。

現在児童数 18 名と聞きました。存続が心配されますが、地域の核は絶対に残したい。心配ですが、「二風谷小学校のアイヌ文化学習」の中に希望を見いだすことができます。

(T さん・特別支援学校教員)

アイヌ文化継承のための実践が数多く蓄積されていて、二風谷小学校で働かれている先生方は本当に素晴らしい取り組みをなされているのだと思いました。

ただ、お話のなかで児童数が減り存続が危ういということで、この実践をどこに残していく方法も同時に考えていかなければいけないと思いました。北海道ではなく、本州に住む私たちにできることは何かを考え続け、継承し続けられるようにしていく努力を怠らないようにしていきたいです。まずは、社会科の授業で出てくるアイヌに関する話をしっかり子どもたちに伝えていきたいと思います。(F さん・小学校教員)

昨日は貴重なお話を聞けて良い学びになりました。北海道で行われている授業を長野県でも聞けるのはオンラインのおかげだと改めて感じました。

アイヌ民族の言葉や文化を知ることができて、新たな視点を持てた気がします。自分にはあまり関係ないかもしれないという気持ちから、もしかしたら身近にいたかもしれない、もっと知りたいと思うようになりました。教科書ではさらっとしか紹介されていないアイヌ民族がとても残念です。さっそく紹介されていた『アイヌもやもや』を図書館で借りて読んでいます。皆様、ありがとうございました。(I さん・中学校教員)

今回は、仙石さんの貴重なお話をお聞きすることができ、大変ありがたく思っております。アイヌ文化を、知識としてだけでなく、歌や踊り、ものづくりなど、実際に体験しながら学ぶカリキュラムになっている点がとても印象的でした。また、地域の特色を活かした学習は、子どもたちが地域への愛着や誇りを育むことにもつながると感じました。

今回学ばせていただいたことを今後の学びに生かしてまいります。参加させていただき、ありがとうございました。(T さん・学生)

昨日は貴重な授業づくり講座を開催していただき、ありがとうございました。今回の講座を通して、アイヌ文化について学ぶことは単に歴史や文化を知るだけではなく、現在も存在する差別や偏見、多様性について考えることにつながるのだと感じました。特に、

「アイヌの問題はアイヌの人だけの問題ではなく、和人側の問題でもある」というお話が印象に残っています。また、二風谷小学校で行われているアイヌ語学習や体験活動、地域の方々と連携した学習の実践から、子どもたちが地域文化を身近なものとして捉え、誇りやアイデンティティを育んでいることを知りました。歌や絵本、工芸体験、校内掲示など

を通して日常的にアイヌ語や文化に触れられる環境づくりは、とても魅力的だと感じました。さらに、地名の由来や自然との関わりを学ぶ活動、劇化や体験学習など、子どもたちが実際に体験しながら学ぶことの大切さも学ぶことができました。今後、自分が授業をつくる立場になった際には、できるだけ当事者や地域の方と直接関わる機会を設け、子どもたちが「遠い昔の文化」ではなく、「今も生きている文化」としてアイヌ文化を捉えられる授業を目指したいと思います。また、悪意のない言葉であっても相手を傷つける可能性があることや、多様な文化や背景をもつ人々と共に生きていく視点を子どもたちに育てていくことの重要性についても改めて考える機会となりました。 大変学びの多い時間をありがとうございました。（Tさん・学生）